

よろくぶ通信

群馬県立玉村高等学校

発行日 2023. 3. 24

第60号

発行人 校長 田島 正徳

第64回卒業証書授与式

3月1日(水)、同窓会長倉林教夫様、PTA会長今田正子様にご出席いただき、第64回卒業証書授与式が挙行されました。

今年度の卒業生は59名です。今年も新型コロナウイルス感染症予防対策や、卒業生保護者の出席も制限がありましたが、吹奏楽部による演奏で卒業生の入場・退場となり参列者の祝福を受け、卒業生は勿論、保護者の皆様にとっても感慨深い式になったようでした。

卒業生を代表して答辞を述べた前生徒会長の中山歩美さんは、「入学式後の二ヶ月の休校から高校生活が始まり、分散登校を経て全員が初めて顔を揃えることができたのは、七月。どう接すればいいか戸惑う中、少しずつ溶け込むことができた。二年生になり初めて取り組んだ大きな行事の修学旅行は心の底から楽しむことができ、最高の思い出になった。そして、進路活動や学校行事、部活動に悔いの残らない覚悟を決めて望んだ三年生。一人ひとりが自分の進路に向かって全力で取り組み、励まし合いながら全員で乗り越えることができた。協力し支え合いながら、様々な困難を乗り越えた経験は、これからの人生で大きな財産となるはず」と、三年間を振り返りました。



本校の教育目標である「璞玉から珠玉へ」ということばを胸に、自信を持って自らを磨き続けてほしいと願っています。

また、卒業式に先立ち2月28日(火)には、次の生徒が表彰されました。

<学校表彰 学業成績優秀>

嶋津 颯太 今田 穂香

<3カ年皆勤者>

大谷 拓也 佐倉 悠人 今田 穂香

<三学期の行事&次年度に向けて>

三学期は短い学期でありましたが、三年生が家庭学習期間になる前に、課題研究報告会(2月7日)や三年生を送る会(2月9日)が実施されました。感染症対策に配慮し、心に残る行事となりました。



また、3月16日（木）後期入試の合格発表があり、来年度の入学予定者が決まりました。22日（水）には合格者オリエンテーションが行われ、新年度に向けての準備が進んでいます。

校長室だより

「卒業式式辞より」

校長 田島 正徳

卒業式の式辞の一部を紹介します。

卒業生の晴れの門出に当たり、一言はなむけの言葉をお贈りしたいと思います。それは、「心に余裕を持つ」ということです。とかく、社会でも「全力をつくす」「一生懸命やる」ということが当然大切であり、高く評価もされます。しかし、短い期間はそれで頑張れるのですが、「余裕」のない気持ちの生き方が長く続くとう無理がきてしまいます。

「余裕」がなければ、目の前のことしか見えなくなります。

「余裕」がなければ、自己中心的になり思いやりや優しさがなくなります。

「余裕」がなければ、安定した力を発揮できません。

ただし、「余裕を持つ」ことは安易に目標を下げて、力を出し惜しみすることではありません。適度に余裕を持つことは、むしろ努力を積み重ねるために必要なことだからです。

式辞には、上記の文を入れさせていただきました。「余裕を持つ」とは、ある機械工学の研究者の言葉です。

日本が世界に誇る精密機械加工にも、この「余裕」が必要であり、許容できる誤差が大きければ大きいほど優れた機械であるそうです。人間に置き換えても同じでしょうか。勉強すること、働くこと、いつも健康を考えた行動をすること、毎日まじめに生活すること、これらはとても大切なことです。しかし、順風満帆な時ばかりではありません。仕事や行動で失敗したときや健康を害したときにも、長い人生を見通して気持ちの幅を持った生活をするこゝで、そういうこともあると、きちんと受け止めて対処できることが、予測困難な時代を生きるなかで大切なことではないでしょう



か。自分の生活を楽しむ、趣味の時間を過ごす、好きなことに没頭する等の時間も大切に心へ余裕を持った生活を送ってもらいたいと思います。

また、他人の考えを受け入れられる心の余裕を持つことも大切です。他人は自分の思うようには動いてくれません。自分とは異なる考え方を認め、合意形成しながら同じ目標に向かって仕事や行動ができること。社会の一員として、それも大切です。世の中には、いろいろな考え方をを持った人がいます。人それぞれに一長一短があり、それをお互いが補いながら社会が作られています。近頃では、インターネットを利用して情報を得ている人も多いと思いますが、インターネット上で知らず知らずのうちに意見が偏ることを「サイバーカスケード」と呼ぶそうです。あまり聞き慣れない言葉ですが、「現象」としてはとても身近なものです。言い換えると、自分の興味あるジャンルや意見を覗きに行くことができ、SNSではフォローする人を自分で選ぶこともできます。そのため、自分が興味のある人、趣味嗜好が近い人だけを選びがちになってしまう。こうした行動の積み重ねが、意見を偏らせたり、間違った認識へ誘導し、場合によっては自己中心的になり、過激になることもあります。自分の考えだけが正しい訳ではないという、客観的な視点と心の余裕を持つてるといいと思っています。

令和4年度も、まもなく終業式を迎えます。今年度は生徒の皆さんにとっては、どのような一年だったでしょうか。生徒指導主事や進路指導主事がいつも話してくれますが、本校としては全体的に落ち着いて過ごすことができ、卒業生も概ね進路目標が達成できました。在校生もみな、学校生活に一生懸命取り組んでくれたと思っています。令和5年度は創立101年目を迎えます。生徒も職員も心に余裕を持ち、次の100年に向けた新たなスタートとして新年度を迎えてほしいと思います。

